

この通信の著作権は妻中学校が有します。無断で文章・画像などの転載を禁じます。

第78期生徒会役員改選が行われます！

世の中では立民代表選、自民党総裁選、米大統領選など、新たなリーダー選出のニュースが流れていますが、本校においても第78期生徒会役員改選の時期となりました。西都中再編を控え



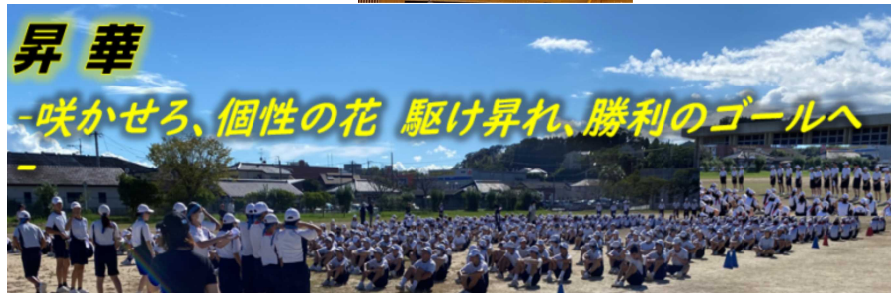
【主な公約】

妻中の伝統を西都中へバトンパスしていく
 生徒の意見を取り入れることのできるシステムを構築する
 どんな人でも受け入れられる温かさの溢れる学校に…
 生徒全員で取り組める行事をつくりあげていく
 みんなが楽しく快適に過ごせる学校をつくりあげる
 ルールメイキングを推進する

[再編]
 [対話]
 [多様性]
 [主体性]
 [心理的安全性]
 [主体性]

この78期及び次期生徒会には、伝統のバトンパスや新たな校風づくりなどの大きな役割を担うこととなります。立候補した生徒達もそのこと

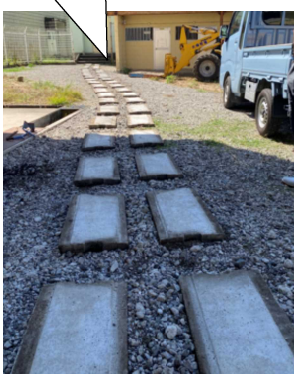
思いが反映されています。今回よりポスターの様式が自由化されると共に、立会い演説会もスピーチやプレゼンなどPR方法を各自で工夫するしくみとなり、表現力や対話力なども見所となりました。



秋桜祭の練習開始
 10月12日文化の部、13日体育の部に向けた練習が始まりました！

PTA奉仕作業、ありがとうございました！

9月1日（日）の除草作業に加え、第2体育館までの渡り廊下を作成していただきました



県金賞 一年の部 井上咲花さん



県特選 一年の部 湯地菜々美さん

県・明るい選挙ポスターで特選

三真の轍 わたち

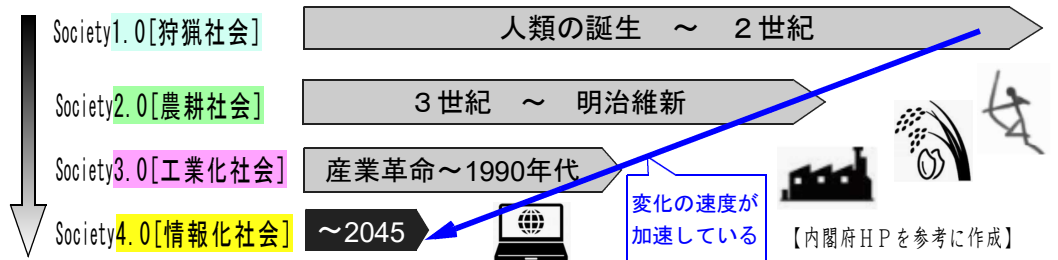
「主体性」と自主性

近年、

教育に関する様々な場面で「主体性を育成することの大切さ」が叫ばれていきます。学校教育の指針である学習指導要領においても、これまで主流であった「教授型」の授業だけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の展開が謳われています。では、この背景には何があるのでしょうか▼この夏、神野元基氏（東明館中学校長、宮崎市教育情報統括責任者）や工藤勇一氏（元・麴町中↓横浜創英中学校長）の講話や動画、書籍からそのヒントや解説に触れる機会がありました。神野氏は、本校でも使用させているAI型教材Qubeta創始者でもあります。時代の変化（Society1.0→5.0）の速さが加速していること※1や、AIの進展によってAI自身がAIを創り出す（AIがある分野で人間を超える）ような「技術的特異点」シミュレーションの到来がすぐそこまで（2045年想定）きていることなどをベースに、教育の在り方も『Society3.0の時代に合った「斉教授式」から『Society5.0の時代に合うものへと変わるべき』と提唱されています▼具体的には「自主性ではなく主体性を育てる教育」そして「一斉教授から個別最適化十学び合いへの転換」です。神野氏は「自主性とは、誰かが決めたシステムの中でのことを自ら率先し

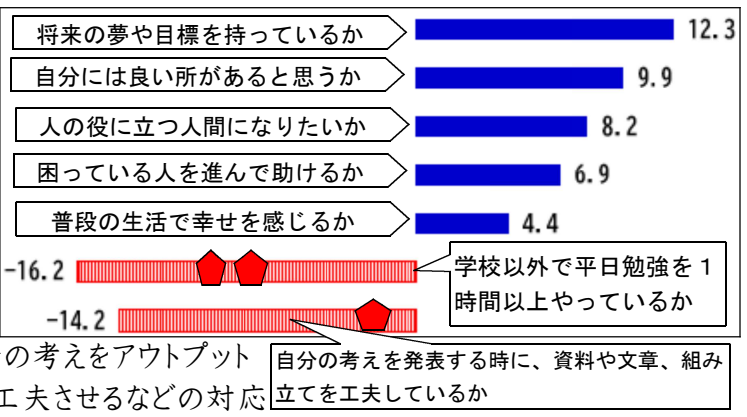
て行う姿勢」であり、「やるべきことを自分で決めていく主体性」とは、似たように見えるが本質はまるで異なっており、これからの激変社会では主体性を発揮できる人材が求められている。また、そのためには先生に教えてもらうのではなく、各人が自分の能力や適性に応じて最適な学び方を選択していくことや、協働して学び合うやり方が大切と言っておられます▼一方、工藤氏もほぼ同じような社会背景から「自律できる人材の育成こそが教育の最上位目標である」との理念に基づき、職員や生徒に当事者意識を高めさせながら様々な学校改革を行ってこられました。お二人とも、激変している現代社会のニーズを見通して、これまでの学校の良さは認めながらも改善すべき制度の改革に取り組んでおられます▼本校も、西都中への再編をにらみながら、今後の社会を担う人材を育てる学校づくりを模索していかなければなりません。本校でも、R6学校目標は「自立と挑戦」、教育ビジョンの第一番目に「生徒の主体性が発揮される風土の創造」を掲げています。目標やビジョンはお二人の考えにも通じるように感じますが、今後には具体的な取組を更に進めていく必要があります。職員や生徒、そして地域の方々と協力し、学校づくりを進めていきたいと気持ちを新たにしたい所です。（校長 伊東泰彦）

※1 Society5.0とは、日本政府が提唱した将来の社会モデルで、AIをはじめとした最先端のテクノロジーが世の中に行き渡ることにより、社会課題の解決と経済発展を両立した社会のことです。



学びに向かう姿勢の向上を目指します！

国は毎年「全国学力・学習状況調査」を行っていますが、全国的に見た妻中の実態はどうなのでしょう。学力の具体的状況はここでは触れませんが、右のような特徴がみられています。青色グラフは全国平均よりもかなり上の項目で、規範意識や自己有用感が高く、西都の風土の中で育った豊かな心や人間性が伺えます。



一方で全国平均を大きく下回る項目として「発表する際に工夫をしているか」がかなり低いことが分かります。これについては学校の学習活動において、自分の考えをアウトプットする機会を増やしたり、さいと学アワードでのプレゼンを工夫させるなどの対応をしているところです。また「学校以外で、平日、勉強を1時間以上やっているか」も大きく下回っています。私自身もそうでしたが、本校の雰囲気として、3年生になるとかなり勉強するようになりますが下級生のうちはのんびりと過ごす傾向があります。やみくもに問題を解くだけが勉強ではなく、本を読んで読解力や共感する力の基礎を培ったり、ニュースや新聞、ネット記事などをみて社会の動きに関心をもつことも、将来社会で活躍するためには必要です。

そこで、10月より「**学びに向かう力確認シート**」を配付・活用しながら、学校外でも自分に応じた学び（主体性の発揮）に取り組ませたいと思います。保護者の皆様には、その確認（週1回のサイン）を通して子どもさんに伴走していただきますよう、何卒ご協力をお願いいたします。